

令和7年度用 藤枝明誠高等学校学校自己評価

※評価基準 A：十分に実践されている B：ある程度実践されている C：不十分である D：わからない									
教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。								
経営方針	「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」「自然愛や人間愛を大切にする豊かな情操」を培う。 また、日本人としての美德を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。								
重点目標	Ⅰ 学習指導の充実		Ⅱ 進路指導の充実	Ⅲ心豊かでさわやかな生徒の育成	Ⅳ 広報・渉外活動の充実	Ⅴ 教育施設・設備の活用			
	項目	令和7年度具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標 ※【 】は数値的目標	令和6度実施結果(成果は○、改善すべき事項は◇) ※丸数字は左欄丸数字の項目に対応			中間学校自己評価			
					評価	教員コメント (67名)	評価 学校関係者評価委員コメント (9名)		
Ⅰ 学習指導の充実	授業改善への取り組み	①生徒の意欲が高まるような分かる授業を実践するとともに授業改善に努め、授業アンケートの結果向上を図る。 【授業満足度調査(生徒)を年2回実施】 【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足の比率)95%】 ②各科、各クラス間、各教員間の指導の格差の改善を図る。 ③定期テスト後に教科会議を開催し、学力定着度の検証及び教科指導の改善を行う。 ④各教科でテーマを設定した研究授業を行い、授業力の向上に努める。	①○授業満足度調査を2回実施し、【生徒の授業満足度(「満足」+「どちらかといえば満足」の比率)】は目標値に届かず、94.1%(R5)から93.8%に低下した。中学では「授業集団の雰囲気」、高校では「説明の内容」の項目において、満足度の比率がやや低かった。 ②◇各科、各クラス間や教員間の指導の格差がまだあるため、教科内での検討・指導等、更に改善が必要である。 ③○教科会議を毎週行える状況(時間割)があり、指導の改善のための教科会議が実施されている。 ④◇テーマを設定した研究授業が実施されなかった。			A 21% B 66% C 10% D 3%	・ICT化に向けて工夫をしているが、さらに各教科でのICT導入が急がれる。 ・従来型の授業展開もパワーポイントなどを利用した授業なども工夫されている。 ・概ね工夫された授業ができている。 ・有効欠席者が多い土曜日の対策が不十分。 ・各教員のスキルにたよる傾向が多分にあり、教科内での改善工夫の話し合い等がなされていない。 ・先生によって教材研究に対する取り組みに差が見られる。 ・ノウハウの共有がまだ十分ではない。	A 11% B 67% C 11% D 11%	・教員の質はそのまま授業の質に反映されるため、教員全体の特別講演(研修会)があってもよい。 ・授業満足度の調査結果はやや下がったとはいえ、数値としては高い。 ・現状の中、工夫を凝らしながら授業を展開されており、生徒がわかりやすいようにという先生方の気持ちがうかがえる。 ・先生方同士のつながりが良いと生徒にとって好影響を与えたいと思いますし、更に共有化が進むことを期待します。 ・授業内容と授業以外の先生の人間性が求められます。魅力ある先生像を考えては。 ・満足度が高い状態で保たれているのは素晴らしい。 ・ノウハウの共有について、その仕組みを一層強化する対応を考えてはどうか。 ・時間的な制約から共有が十分でない教科があった。
	学力の定着と向上に向けたきめ細やかな指導	①放課後プロジェクトや「9時まで学習」の一層の活性化を図る 【9時まで学習参加率65%以上目標】 ②予習、復習、宿題の提出・点検指導等の徹底を図る ③英語検定指導等を継続して組織的に行う 【英検2級300名以上、準1級20名以上】 ④学力の基礎である国語力(文章読解や表現力)の向上のための取組を行う 【小論文指導】 ⑤国際教養教育を推進する ⑥普通科生徒の学力・学習意識向上のための指導を実施する ⑦大学入試に対応した問題を定期テストに導入する ⑧家庭学習を充実させるため、オンデマンド教材の配信が実施できるように環境を整備し、配信を実施して学力の定着と向上に努める。 ⑨ICTを利用したオンライン授業が実施できるように環境を整備し、休校時等のオンライン授業実施に備える。	①◇図書室における放課後プロジェクトの参加は前年並みであった。 ○例年以上に職員室及び職員室前フロアで、積極的に個別指導を受ける生徒は増加した。 ○「9時まで学習」の参加率は、65%で前年度の57%より上昇し、数学・英語・国語における共通テスト対策の基礎講座の参加は盛んであった。 ②○各教科・各学年において、細かな指導が実践された。また『明誠ダイアリー』を利用した学習習慣確立のための指導が各クラスで実施された。 ③◇【英検2級取得者数253名、準1級取得者数18名】前年より英検2級取得者数が6名減少、準1級が1名増加した。上位の級の受験推進、英語学力の全体的な底上げが必要である。 ④◇総合型選抜や学校推薦型選抜に対応していくため、小論文指導等の早期実施により、国語力の向上に努めたい。 ⑤○Dream Gateway Programの実施、留学生の受け入れが行われ、グローバルな視点の涵養がなされた。3月には台湾・台南市の私立南英高級商工職業学校が来校し、学校交流が行われた。 ⑥◇各学年、教科毎に対応を行っているが、統一した計画による実施には至らなかった。 ⑦○各教科において、大学入試共通テストに向けて定期テスト等の工夫を行っている。			A 28% B 61% C 8% D 3%	・教員のスキルや熱意にたよるところが多く、格差があるのではないかな。	A 0% B 89% C 11% D 0%	・予習・復習・宿題は習慣化が理想です。点検は大変かと思いますがよろしく願います。 ・家庭学習の充実を期待します。 ・英語力は国際的であるが、これだけAIが台頭してきているので、よりいっそう国語力を高めてほしい。 ・オリジナルのダイアリーで早くから自分のスケジュール管理が身につくのは良いと思います。 ・英検上位級の取得がアドバンテージとなることを踏まえ、英語学力の強化を推し進めていただければと思います。 ・放課後の9時まで学習等、先生方の熱意は感じます。 ・生徒の表現力や思考力、論理的に説明する力を養うためにも小論文指導に特に力を入れてほしい。 ・英検だけでなく、TOEIC等の受験を検討してはどうか。 ・「9時まで学習」の成果を定量評価してみてもはどうだろうか。 ・9時まで学習を行う生徒の意欲が高まっているのは大変よろこばしい事だと思う。先生方はお忙しい中大変だと思いますが、できるだけご対応いただき、モチベーションの高い生徒達の成果が出るようにご協力をお願いしたい。

			⑧◇スタディサブリを全生徒が使用できる状態となっており、到達度テストを受けての学力補充のための講座を学年・教科で積極的に配信したい。 ⑨○Wi-fi 環境及びプロジェクターの全教室設置が行われ、授業時に活用された。また、休校時等にオンライン授業配信を実施する環境は整った。				
Ⅱ 進路指導の充実	進路希望の達成に向けたきめ細かな指導	①進路講話や個別面談、総合的な学習等(キャリア教育の推進を含む)により目標設定と進路意識の早期確立を図る ②教員の教科・進路指導の力量向上を図る ③教科検討会で模擬試験結果の検討を行い、生徒各個人に対応した指導を行う ④生徒の満足度の高い進路指導を行い、大学への現役合格達成を図る 【現役合格 95%】	①○高校1年生の進路ガイダンスでは河合塾「R キャンプ」を使い、文理選択研究の一助とした。後期は外部講師による大学選びについて講演を行い進路意識の高揚に役立てた。 ○高校3年生対象の大学説明会、高校2年生対象の学部・学科説明会では40大学に来校していただいたが、上位校をもっと充実させたい。生徒たちは熱心に説明を聞き、進路目標の設定・進路意識の高揚に大きな意義があった。 ○高校2年生で活用した『志望理由書・マスターノート』は、新入試に対応する教材として今後も活用したい。 ②◇新課程入試についての広報を心掛けたが、研修会の必要があった。 ③◇外部模試後の分析・検証の機会が持てなかった。 ④◇四大志望者の大学現役合格率は97.3%で目標の95%を上回った。ただ浪人が15人(昨年は5名)で在籍数の4.0%(昨年2.0%)であった。	A 46% B 47% C 5% D 2%	・進路課を中心に、学年進行に応じた適切な対応ができています。 ・生徒の進路希望に沿ったアドバイスを担任がしっかりと行っている。 ・進路課からも必要な情報が適時伝えられている。 ・面談の充実が結果につながってくると考える。七時限目カットの際には、そういった時間に充てられると良い。 ・進路関係の取り組み、イベントを多く行って生徒の進路への意識を高めている ・高3の夏明けから加速するように感じる。 ・本当ならもっと早く動いた方がいいが、生徒たちの希望次第の部分があり、難しい。	A 33% B 67% C 0% D 0%	・面談後のフォローがあるといい。 ・個別指導の頻度を上げてほしい。 ・日本は進路決定が遅いので、1年生の段階から意識させていくのが大切である。 ・進路に関しては親とのズレが生じないような指導が必要。 ・生徒によりそった対応をして下さっている。 ・生徒が主体的に進路を選択できるよう支援をお願いします。 ・大学合格率の高さからも、きめ細かい指導がなされているのだと思います。 ・進路指導はもっと早い段階から始めてもよい。 ・総合型選抜の選択肢があることなどは、高1や高2の頃からもっと情報提供してほしい。そうでないと準備期間が短くなってしまう。
	難関大学等の合格に向けた指導	①国公立大学及び難関・中堅私立大学に合格できるような学習・進路指導を推進する 国公立大学の総合型・学校推薦型選抜にも積極的に挑戦する(学研小論文講座の活用) 【第3学年 進路目標】 東大・京大・国公立大医学部・東京科学大・一橋大→複数合格 旧帝大→2桁合格 国公立大→80名以上 (静岡大・静岡県立大・静岡文芸大→40名以上) 早・慶・上→10名以上、 GMARCH・東京理科・関関同立→60名以上 ②旧帝プロジェクト(上位層の強化) ③共通テスト対策講座 ※②、③共に「9時まで学習」の時間を活用 ④医進プロジェクトで国公立大医・薬等の指導強化	①◇2024年度入試の国公立大学合格数は、総合型選抜・学校推薦型選抜15名、前期40名、中後期7名で計62名であった。在籍数に対する国公立合格者の割合は17%であり、昨年の計65、20%を下回る結果となった。主な内訳は旧帝は東北大1、大阪大1、地元の静岡大13、静岡県立大10等であった。難関私大は、早稲田大2名、慶應義塾大1名、東京理科大2名、明治大7名、青山学院大3名、立教大2名、中央大6名、法政大5名、関西大3名、関西学院大4名、同志社大1名、立命館大1名、計38名であった。 ②○◇最難関大学に挑戦する学力トップ層への指導は、旧帝プロジェクトで行ったが、ノウハウを継承するためにも、中堅・若手職員も参加しチームでの受験指導体制を構築すべきである。 ③○各教科とも放課後の個別指導には積極的に取り組んで頂けた。また「9時まで学習」を利用して、英語・数学・国語で旧帝プロジェクト・共通テスト対策講座を積極的に実施して頂いた。 ④○医学科合格は関西医科大学の1名であった	A 28% B 60% C 10% D 2%	・数字上の実績は、残念ながら前年度を上回ることができなかった。個人のスキルにたよらない教科内での改善に向けての具体策がさらに求められる。 ・全体の学力低下がみられるが、難関大学合格に向け様々な学習支援を行っている。 ・数学、英語を中心に放課後の特別講座を行っている。 ・授業でも難関大の問題の演習ができています。 ・教科によって取組に差が見られる。 ・難関大学の合格を目指す学校の教員として、全スタッフがさらに入試問題研究や模試の研究を行いたい。 ・難関大学合格に向けた指導のノウハウをより一層深めたい。	A 11% B 89% C 0% D 0%	・放課後特別講座を2年生から始められないだろうか。 ・様々な取組がされていてすばらしい。 ・熱心に取り組んでいただいている。生徒には個人差が大きく、それぞれに合った学習方法があると思うが、学校全体で取組み、合格者数の向上につなげていただきたい。 ・「9時まで学習」の取組には大いに期待している。その成果を数値化できると良い。 ・国立大学希望者への指導を強化して、合格者の人数を増加に転じさせてほしい。
Ⅲ 心豊かでさわやかな生徒の育成	社会性や道徳心の育成	① 礼節を重視し、様々な場面でマナーや社会的規範意識を育成する。 正門での礼や予鈴黙想の励行、HRでの朝終礼時の指導・国旗、校旗の掲揚指導・校長講話等。 ② 校内外の美化や教室等の整理整頓に対する指導 ③交通ルール、マナーの指導を通し、危険察知と思いやりの心を育み交通事故防止を図る。 【交通事故10件以内】日常の交通ルール指導・自転車マナーアップ教室・街頭交通指導 安全な自転車使用のため点検整備は、自転車整備士によるものとし、TSマーク等を利用。	①礼節指導。全体的に校内での挨拶等は良好である。 ◇校外での立ち居振舞い等、明誠生徒はきちんとしているとの声もあるが、集団時での行動等一層の指導が必要である。 ②教室の整理整頓はHRにより差はあるが、担任の指導により生徒の意識向上が見られる。 サッカー部、陸上部、野球部等の清掃活動は、校内や学校周辺の清掃・除草等環境美化に貢献した。 トイレ清掃・教室内整理整頓・水回りの清掃指導を実施した。 ③職員による登校時の街頭交通指導により交通安全意識の向上も見られた。生徒課による下校時の街頭指導の実施。	A 23% B 66% C 8% D 3%	・挨拶、清掃、服装、頭髪などしっかりとした指導がされ、さわやかな生徒が育っている。 ・部活動の指導による影響が大きい。 ・朝の挨拶をする生徒が多く、気持ちがいい。 ・以前に比べ、社会性、道徳性は低下しているように感じる。 ・家庭での指導、義務教育の指導が前提であるが、価値観の変化に苦しんでいる。 ・生徒指導を社会の変化に合わせて適正に行うことが重要である。	A 0% B 100% C 0% D 0%	・先生方の朝の交通指導いつもありがとうございます。 ・伝統的に守られるべき礼節もあるが、時代・社会の変化に調和したマナー作りも大切。 ・いじめはクラスの中だけでなく部活動の中でも起こりやすいことを意識する。 ・挨拶がしっかりとでき、マナーの良い生徒が多いが、以前に比べ社会性、道徳性の低下がもし見られるとすれば残念なことです。 ・交通事故件数の減少は日々のご指導のおかげです。たいへんですが、継続してご指導をお願いします。 ・礼節を重んじた学校指導ができています。

	④徳育を強化し、思いやりの心を育成するとともに問題行動の発生を防止する ⑤生徒の観察、生徒面談、いじめアンケート等を活用して、いじめ防止に取り組む。 【いじめアンケート年3回実施・学校生活アンケート実施・保健室相談箱の設置】 ⑥スマートフォンの使用法など SNS についての啓発を行い、問題発生を防止する 【「スマホ安全安心講座」実施・「スマホの 17 の約束」配布と家庭での約束作り(地区会)】 ⑦教員の生徒指導力、クラス経営力向上のための研修(救急救命法、生徒指導、スマホ安全安心講座)の研修を実施する	◇交通マナーについて、地域住民から苦情が時折寄せられた。主に一時停止不履行・併進等、職員の指導が浸透しない生徒もあり、繰り返しの指導が必要である。 ◇交通事故は、18 件。前年比減少。 ほとんどが軽微な事故であるが、重大事故に繋がらないように、また相手自動車等の不注意による事故も増加しているため、ルールの遵守と周囲の状況の確認をさせる指導の継続。 ③ ◇問題行動・校長指導 4件5名 ○各学年とも個々の生徒指導は当然あるが、全体的には落ち着いた学校生活を送っていた。 ⑤○いじめアンケート年3回・学校生活アンケートの実施。いじめに関する調査、学校生活アンケートは、いじめの防止、友人関係の改善や生徒指導に活用した。 ⑥スマホ等の使用は、多くの生徒はルールを守っているが、校内・登下校中のルール違反等の生徒も見られるため、日々の指導を継続。 ⑦救急救命法の実施による緊急時の対応・いじめに関する研修により未然防止と早期発見と対応。 スマホ安全安心講座の実施によるスマホ利用の啓発。				・いじめ防止の取組は積極的に進めてください。 ・さわやかな挨拶や清潔な校内で、学校を訪れるととても気持ちが良い。ぜひ明誠の伝統として続けてほしい。一方で交通マナーは苦情を受けることがあるとのこと。事故につながる＝命にもかかわることなので、しつこいぐらいの指導をお願いしたい。
基本的生活習慣の確立	① 正しい身だしなみの指導を徹底する 学年全校校風指導年6回実施 ③ 制服等の着用指導を徹底する ④ 基本的生活習慣の指導を職員の共通理解のもとに実施する ⑤ 校則の遵守 ⑥ 感染症等対策の実施・健康管理指導 手洗い、うがい・手指アルコール消毒・教室の換気等の習慣化を図る 保健室便りの発行。毎月1回さくらメールを利用	○学年校風指導を6回実施。服装面で大きな乱れはない。 ○基本的な生活習慣はある程度確立されていた。 ・制服等の着用状況は良好である。 ・体育、清掃・作業時以外のジャージ着用は見られない。 ○生徒は校則をおおむね遵守していた。 ・スマホ等の指導に関しては日常の継続指導が必要であり、慣れからルールにならないよう注意。 ○各HRの手指消毒薬の設置継続と教室の換気等の指導継続。	A 25%	・校内での生活の様子から非常に落ち着いている様子が伺える。 ・周辺の公立校に比べ少し早い登校であるが、しっかりと登校でき、落ち着いて朝礼ができています。 ・清掃時の服装が正しくない生徒が見受けられた。 ・自分から挨拶ができない生徒が増えた。挨拶運動等、定期的に行う必要あり。 ・生徒指導に当たっては、統一した指導基準を各教員が意識して行いたい。	A 11%	・冬の風邪の時期に部活動からうつることが多いように感じる。 ・挨拶は最も大切であるので、きちんと指導の徹底をお願いします。高校時代に身につけるべきです。 ・登下校の生徒を毎日見かけるが、身だしなみは良い。 ・自己評価の「自分から挨拶ができない生徒が増えた」との回答については、今後の課題として受けとめる必要があると思う。 ・冬服の期間を少し短くしてもよいと思う。(11～4月など) ・登校の際にシャツがズボンに入っていない生徒を見て、身だしなみへの意識をより高める必要があると思った。 ・スマホのルールに関しては時代の流れも加味した変更など、定期的に見直しても良いのではないかな。
	部活動の充実	①学習と部活動の両立を一層推進しつつ、生活面での指導も強化することにより、心身を錬磨し、自律的な精神と協調性を養う 【部活動加入率 80%以上】 ②県大会や全国大会への出場及び各大会での上位進出を果たす 【県大会出場～全ての部、全国大会出場～4部】	○多くの生徒が部活動に加入している。部活動・同好会加入率約 80% ○各部のテスト前の集団学習が活発に行われた。 ○各部活動生徒が挨拶・行事等、先頭に立って集団をまとめ積極的な活動が行われた。 ○大会・試合の結果のみならず、各部活動を通して人間形成にしっかりと取り組んでいる。 ◇部活生徒の登下校時の服装、早朝時の自転車走行注意 ・「併進、右側走行、一時停止」について指導。 ・早朝時の登校服装注意。 ○チアリーディング部の全国大会1位、世界大会1位(USAフロリダ)。 バスケットボール部の全国高校総体ベスト8、全国高校選手権大会ベスト8と世界、全国での活躍があった。陸上競技部は5種目6名の東海地区大会出場4種目3名の全国総体出場と活躍した。射撃同好会の国民スポーツ大会出場。サッカー部は、県高校選手権大会ベスト4。柔道部の県総体個人 100 kg超級、2位、東海総体出場。陸上部県駅伝2位東海大会出場等県大会での活躍があった。また多くの部が県大会	A 56%	・多くの部活動で、団体、個人とも県の上位、東海大会に出場している。 ・全国で活躍する部活動が多数あり良い刺激を受けている。 ・学校全体としては、今ひとつの成果であった。お金と労力をかけるところは、物心両面において支援が必要ではないかな。 ・一般の生徒が入りやすい部活が少なく、適度に負荷のある部活動を増やしたい。 ・文化部が少ないのもあり、活動が充実していないように感じる。	A 78%

			に出場する活躍を見せた。文化部では、棋道部が県新人大会男子団体戦で2位。囲碁部では女子個人で全校大会に出場。MLACは英語デイベートでの全国大会に出場、予選リーグを突破しトーナメントに出場するなど活躍した。また、吹奏楽部も県大会コンクールや重奏コンテスト金賞等の活躍があった。 ○【県大会出場:ほとんどの部 東海地区大会:4部 全国大会出場:6部】				・有名な部活以外にも一般の生徒が充実した活動を送れる部活が増えると良いと思う。
IV 広報・渉外活動の充実	広報活動による学校理解の促進	①広報誌の発行、ホームページの活用等様々な手段を通して、本校教育に対する保護者や地域社会の理解を深める。 ②ホームページ(HP)の更新を積極的に行い、効果的な情報発信を行う。 【数値目標 年間アクセス数 600,000 アクセス】 ③学校説明会参加者を増やす情報を提供する。 ④本校理解がより深まり、募集に効果的な内容にするために、広報誌等の見直しを行う。 ⑤地域の自治会等への情報提供や学校行事への招待等を積極的に行い、学校理解の促進と広報の推進を図る。	①○「明誠ニュース」「進路だより」保護者会広報誌「初心」など予定通り発行した。 ○部活動・同好会の様子を紹介し、中学生の多様性に対応できるように努めた。 ○保護者会地区会でも出された質問や要望への回答を文書で配布した。 ②○HPのアクセス数が約8%増加したが、数値目標の60万アクセスには届かなかった。 ・2024年4月1日～2025年3月31日のアクセス数574,291(+42,196) ③○学校説明会への参加者数(1日体験入学、直前相談会を除く)は、例年以上を確保することができた。 ・H4・1,305人 H5・1,285人 H6・1,457人 172人の増。 ④○見直しを行ったほか、新たにアクティブASコースのリーフレットを発行、配布した。 ⑤○入学式、卒業式、文化祭、体育大会に自治会役員を招いた。	A 33% B 55% C 10% D 2%	・中学校、塾などへの訪問、また本校へ来校する機会(説明会、体験学習会、部活体験など)について、できる限りの広報活動が行われている。 ・学校生活の様子がわかるようにホームページが随時更新されていて、より充実したものになっている。 ・ホームページにタイムリーに記事を載せることがもっとできるようにしたい。 ・学校生活がいかに充実しているかという所をしっかりとアピールしていくと、中学生の心にもさらに響くと思う。 ・コース変更や名称変更について、中学の先生方にはまだ十分に浸透していないようだが、本校入学を考えている中学生には浸透しつつある。 ・コース名の変更については、SNSによる外部への発信がさらに必要である。 ・募集活動に新しい知見による改善が必要である。	A 11% B 89% C 0% D 0%	・ホームページの更新頻度を上げてアクセス数を増やしたい。 ・様々な分野への発信がなされ、自治会への対応も行い、地域に密着した広報がなされた。 ・「学校案内」(冊子)を拝見したが、わかりやすく作成されている。 ・HPだけでなくSNSも活用するとよい。 ・他校のテレビCMでは、今どきの子供に対してアピールをしている様子が見られる。 ・ネットでの情報収集や口コミによる情報の取得に対応することが、学校の周知にはより有効である。
	積極的な渉外活動の実践	①小中学校への積極的な学校訪問等により募集の拡大を図る。併せて、入学者の増加に有効な方策を具体的かつ速やかに実施する ②焼津・藤枝・島田・榛原・小笠・静岡西の小中学校を対象とし、組織的に募集活動を展開する。 ③学習塾への訪問を行い、募集の拡大を図る ④県外募集の充実を図り、有為な生徒の確保に努め、入試内容・方法について見直す。 ⑤「1日体験入学」「入試直前相談会」の充実、取り組みの強化を図る。 【学則定員の確保】	①◇年間の生徒・保護者の総動員数は4,121人となり、昨年度(4,321人)より200人減少した。 ②○志太・榛原・小笠・袋井地区への中学校訪問を職員で分担し、3年主任や進路指導主事と直接面談して募集拡大を図った。また、静岡地区では重点校を絞り募集活動を行った。 ③○職員が分担で学習塾への訪問を行った。 ④◇福岡奨学生入試では1名の単願入学者があった。札幌奨学生入試は受験者がなく、札幌一般入試は、受験者が1人であった。 ⑤◇1日体験入学の参加者は2,170人で昨年度より313人減少した。入試直前相談会の延べ参加者数は494人で昨年度より45人増加した。	A 36% B 53% C 8% D 3%	・担当別で中学校訪問をし、中学校の進路担当者と良い関係ができてつつある。 ・多くの教員による中学校訪問は大変であるが、功を奏している。 ・積極的に実施している。時代の変化に合わせて新たな取組を増やしたい。 ・地元の中学校へのアピールを更に増やしたい。	A 11% B 89% C 0% D 0%	・各分野への積極的な取組は素晴らしいです。 ・先生方、職員のみならずまで分担し、イベント活動、中学・学習塾への訪問を展開されており、多忙の中、尽力なされている。 ・中学校ごとに訪問説明する担当者をそれぞれ決めていることは評価できます。 ・一日体験入学は多くの中学生や保護者にアピールできるたいへん有意義なイベントだが、その参加人数が大きく減少している。中3生の総数が減っているのか、その減少率との比較などの分析をしっかりと行い、対策してほしい。
V 教育施設・設備の活用	安全で快適な教育環境の実現	①学習活動や部活動が安全かつ快適に実施できるよう常に配慮する。 トイレ・水場の清掃活動の徹底。教室・廊下で汚れが目立つ箇所の点検と業者によるクリーニングを実施。 スズメ蜂による被害防止のために駆除用具の設置を実施。 ②清掃状況を具体的に指示し学年主任や清掃担当と協力して清掃指導の徹底を図る。また事後の点検では不定期で総務課による点検を行う。	①毎水曜日早朝に理事長点検を実施し、施設の安全を確保した。 清掃活動に力を入れた。水場・トイレ・階段の清掃状況は安定している。 トイレの床清掃などに差がある。 テスト期間の簡単な清掃も定着しつつあるが、教室により差がある。 春季休業中に教室廊下を業者による清掃とワックスを施行。通常清掃でききれいな状態の維持に努めた。 窓枠の清掃と潤滑剤の塗布によるメンテナンスを実施すると同時に、開閉に支障が出ている箇所を確認し事務から修繕の依頼を出した。	A 16% B 55% C 21%	・安全管理上の点検、破損箇所の修繕など速やかに進めている。 ・机椅子の交換など細かなところでも、学習環境を整えている。 ・エアコン施設の修理、図書室カーペットの張替など広範囲の環境整備も実施している。 ・40年の校舎にしては綺麗に保たれている。修繕箇所もモグラたたきのように生じているが、しっかりと対応してくれる。	A 11% B 78% C 11%	・東館トイレのリフォームをお願いしたい。 ・安全＝命につながるので、これからも点検に力を入れていただきたい。 ・保護者会総会などが体育館で行われることも考えると、エアコンの設置を検討してもよいのではないかな。 ・長期にわたり使用されたものに修繕が必要となるのは当然ですが、適切な維持管理の継続をお願いします。 ・地震、台風、洪水など自然災害が頻発しており、登下校時の安全確保も含め、ご指導をお願いします。

	教室・廊下・階段の蜘蛛の巣除去と防止のために清掃と薬剤添付の実施。 ③破損箇所の把握と迅速な修繕を図る。【6月・11月・2月の一斉点検実施】 ④電気、紙等の節約を励行し、経費と資源の有効活用を心がける。 ⑤消灯、戸締まりの徹底を図る。 ・トレーニングルームの使用について注意・説明会を行う。 ・夜の施錠確認は日直と引継ぎ者の報告から不備のあった施設の管理担当に報告する。また全体への連絡により徹底を図る。 ⑥地震発生時の避難や防災に関する訓練・学習会を5月と8月に実施し、生徒の安全を確保する。5月は志太消防と連携した連絡訓練、8月では防災学習会を導入。 ⑦地区懇談会で出た保護者からの意見・要望に毎年回答を出しているが、施設面での意見・要望については特に配慮して可能なところから改善していく。 ⑧原子力災害に対する避難計画を作成する	②掃監督者と協力を図りながら清掃指導はできている。点検後の対応も早くなった。 ③破損箇所の報告と修繕は迅速に行われている。 ④消灯、空調のスイッチオフ等の節電については、夏場を除けば改善されている。職員への配布物に関しては掲示板の有効に活用、家庭への配布物に関してはさくらメールを有効活用することができた。 ⑤全体的に未施錠件数は減少した。 ⑥5月に防災避難訓練、8月に防災学習を実施した。 5月の防災訓練では自衛隊による防災学習会を体育館で実施し、防災意識と知識の向上に努めた。 ⑦原子力災害に対する避難計画は未作成であった(藤枝市の指針が未発表のため)。	D 8%	・冷暖房が改善された。 ・修繕の必要箇所が見られる。 ・防犯カメラをさらに屋外にも設置して欲しい。 ・エアコンの大規模な工事が入ったが、まだ不具合が見られる。 ・1F 調理室、3F 理科室、3F 家庭科室にクーラーを設置してほしい。 ・体育館のエアコン設置を検討してはどうか。生徒募集にもよい影響があるのではないかな。 ・地元の生徒にもっと目を向けてもらえるように整備をしていきたい。	D 0%	・教育施設の充実がされてきました。 ・校内環境はきれいに保たれていると思います。 体育館の冷房装置は予算的に難しいと思うが、あきらめずに設置するためのアイディアを出してほしい。
--	--	--	---------	---	---------	---